



野田聖子衆議院議員
選挙区：岐阜県第1区

1960年、福岡県生まれ。上智大学卒業後、帝国ホテルに入社。1987年、岐阜県議会議員選挙に自由民主党公認で立候補し、史上最年少の26歳で当選。1993年、衆議院議員初当選し、以後連続当選9回。1998年に戦後最年少大臣(当時)として郵政相に就任し、その後も郵政大臣、内閣府特命担当大臣、自由民主党総務会長、総務大臣、女性活躍担当大臣、衆議院予算委員長を歴任。現職は党・政治制度改革実行本部長。



議員会館のデスクや壁には笑顔でいっぱい家族写真が

野田聖子 オフィシャル・サイト
<http://www.noda-seiko.gr.jp/>

政治家は結果を出すことが大事。
応援している人にも
その姿を楽しんでほしい



衆議院議員
野田聖子

港区議会議員
黒崎ゆういち

01
対談

港区議会議員として、2期目のスタートとともに誌面をリニューアル。
より黒崎ゆういちを深く知っていただくために、対談企画をスタートいたしました。
記念すべき第一回のゲストには、4月の港区議会議員選挙において、黒崎ゆういちに応援演説をいただいた野田聖子衆議院議員(以下、野田議員)にご登場いただきます。
選挙の応援に立られた理由から、港区の子育て、東京に迫る2025年問題、そして先輩議員としての助言までお聞きしました。

撮影：STUDIO T&H 鳥村浩明 聞き手・編集：actif 赤池淳子

先の港区議会議員選挙では、黒崎区議の応援に立っていましたが、以前からお知り合いだったのでしょうか。

野田議員：元々仕事場での出会いはなかったのですが、かなり以前から私の秘書が黒崎さんの品川駅港南口での駅頭活動の様子を話してくれていました。私が全幅の信頼を置いている秘書が「とてもいい議員に出会いましたよ」と言っていたので、印象に残っていました。最近になって、私の息子が特別支援学校から自宅に最寄りの特別支援学級がある普通学校へ転校したのですが、そこが黒崎さんの活動されているエリアだったことで実際に知り合いました。岐阜県の国会議員として働いている私が港区議選の応援に立つのもおかしいかなと思いつつ、息子がまさに授業を受けている学校の隣の公園で、応援に立たせていただきました。



区議選では黒崎議員の応援演説も

黒崎さんは秘書の話してくれた通りの真摯な姿勢の方で、出会えてよかったと思っています。一流企業のキャリアを捨てて、退路を断って真摯に取り組んでいるという事実は、長い付き合いでなくてもどんな人か分かりますよ。その誠実さが政治家としては新鮮で、これからもその姿勢が変わらない人だろうと感じています。「この人は落とせないな」と思って真剣に選挙戦を戦いましたから、よい結果で当選されたことが私ともうれしいです。

実際にお住まいの芝浦港南地区の印象はどうか？

野田議員：「若い」ですね。子ども中心のソサエティになっていて、「見える化」されていると感じます。私は平日に東京で国会の仕事をして、週末は選挙区の岐阜に戻る二重生活をしているのですが、地元で「港区には1校で1000人以上いる小学校が複数ある」と言うたびびっくりされますよ。岐阜は学校がどんどん統合されていますから。港区にも子どもが多いことでの苦労があるだろうとは思いますが、やはり港区は次の日本の象徴にならないといけない場所ですから、さらに環境整備を進めてほしいと願っています。
黒崎議員：保育園はやっと待機児童が解

消できましたが、小学校の教室数不足は引き続き課題としてあります。まちづくりを考えて俯瞰したときに、特に港南地区には港南小学校・港南中学校を中心に地域がまとまっています。防災に関してもその一体感があり、学校施設の役割を超えた地域の重要な拠点となっているのを見ると、やはり学校を活用した新しいまちづくりという視点がキーポイントになってくると思います。
野田議員：欲を言えば、さまざまな子どもたちが集まれる、いじめや虐待からも子どもたちを守ってくれるような、ハードとソフトの両面が充実した先進的な居場所を作ってほしいですね。黒崎さんは特別支援学級の子どものことも普段からとても気にしてくれていて、感謝しています。欧米ではもっと進んでいる教育現場でのインクルージョンが、日本でもぜひ進んでほしいですね。特にこれから国際社会で生きていく子どもたちにとっては、今の障がい児は足でまといではなく、「何がハラスメントなのか」を学ぶ仲間ですから。一緒に生きていく中で、子どもたちの中に眠っている優しい心根をひっぱり出すような関係が築けると良いですね。
黒崎議員：公教育の充実や、ひとりひとりの個性を生かした多様性への取り組みは非

常に重要だと思っています。港区で先進モデルを作り、広げるきっかけになるようなまちづくりをしていきたい。リニア中央新幹線の開業も迫っていますので、スピード感を持って取り組んでいきます。
野田議員：リニア中央新幹線は私の地元の岐阜にも止まります。個人的にも地元との行き来が楽になりそうですよ。今は縁があって子どもが理想的な環境に通わせていただいています。そのおかげでほとんどの地方が失いかけている「子どもがいる地域」を十二分に拝見させていただいています。地方もこうなると良いなと思いますね。
ただ逆に、長期的に見ると東京が日本の足を引く張る可能性もあります。いわゆる「2025年問題」です。地方はもう高齢化のピークがほぼ過ぎて、岐阜でも特別養護老人ホームの空きが出て来ましたが、一方で、現在めいっぱい地方から人を集めている東京では、今はまだ若い人たちが高齢化したときの用意ができていないか疑問です。地方は土地が余っているので施設も作りやすいですが、東京は土地の値段も高いですね。私は全日本不動産政策推進議員連盟の会長もしていますが、港区は国際市場だから値段は下がらない。でもお年寄りほとんど増えていくし、核家族化で3世帯の家

族はほとんどない。高齢になって自分で生きていけなくなったときにどうするかが見えていないですね。在宅福祉は簡単ではありませんから。
黒崎議員：「地域包括ケアシステム」がどこまで機能できるかは大きな問題だと認識しています。土地も非常に高くて小学校も建てられないのは港区にとっても大きな悩みですが、実は港区は都有地や国有地などの公有地が多い地域なので、それをいかに国や都の協力を得て転用していくかがカギだと思っています。うまく民間と一緒に開発をして、税金を過度に使わずに必要な施設をまちづくりの中で生み出していくことが私のビジョンです。
野田議員：それは良い案ですね。協力しますが、その施設の老朽化が問題になっています。行政や政府、民間とも協力し、産学官連携で最新の施設への建て替えを進めてほしいと考えて長年活動しています。実現の際は、ぜひ地域に開かれた場所になってほしい。小学校や高齢者施設の建築から、帰宅困難者対策、運河の活性、アリーナの

建設まで、街の課題の多くを解決できるポテンシャルがある場所です。
野田議員：なるほど。良いですね。ぜひ実現してもらいましょう。
黒崎議員：ただ、省庁の壁もあり、なかなか地元だけでは進められない現実があります。私としてはみなさんの地域の、そして、港区の未来を作っていくようなネットワークを作って、課題解決を目指していきたいと思っています。
野田議員：黒崎さんがいみじくもおっしゃった「縦割り行政」も問題ですね。例えば健康児は文部科学省、障がい児は厚生労働省が担当で、ちぐはぐです。港区には、ステージに応じて、そこに行けばワンストップでスムーズに生活できるようになる、先進的なプロジェクトに取り組んでほしいですね。高齢者福祉と子育て支援もバラバラに考えずに、もっと行き来してほしい。そういうランドマークができると、ますます港区の力が上がりますよ。
黒崎議員：現状、民間だけの力だと、投資効果に対して満足いくような結果を出せる計画は、オフィスか高級マンションの2つの選択肢しかありません。ただ、今は港区がどういうまちづくりを目指すか積極的に打ち出せていない面があります。民間だけで開発を続けてビルだけが増えた街に、人

が長く住み続けることがどこまでできるか疑問です。それではお金が払い続けられる人しか住めなくなってしまう。今までのように地域の課題や要望を行政の予算で解決をしていくというだけでは、地域課題や地域のニーズを解決できない時代になっていると思っています。
野田議員：アンケートを取ると、今満足している人でも将来は不安という人は多いものです。だから現状で良いと思いついていけばいい。将来の不安を解消するのは政治の仕事なので、一番リアルタイムで生の声を受け止めることができる区議の強みを蓄積してほしいですね。子どもたちのことを考えると、現状維持でもよかった時代とはやはり違いますから、ゆっくりと落ち着いて考えつつも、決断していく必要があると思います。
最後に、今後の黒崎区議へのアドバイスをお願いいたします。
野田議員：自民党の議員である前に、地元の皆さんに応援してもらって議員になったことを忘れないことですね。黒崎さんも仲間のために議員になったはず。私はずっとそうです。野党の議員からは「自民党の議員らしくない」とよく言われますが、野党だと地元から課題を承るこ

とはできても、形にして返せない。でも自民党なら仕事ができるんです。政治は勝ち負け、結果を出すことが大事。実際、1期生はなにも仕事ができないものです。私は当選9期で、選挙も11回戦いました。長く勝ち続けると、プレーンも増えて自然といういろいろな政策が実現できるようになります。今は焦らないこと。地元で応援してくれる方々と生きていく覚悟があれば、きっちり勝ち続けられます。そうすれば、勝つ度に仕事が増えるようになる。だから次の4年は1期目よりもさらに仕事ができるはずですよ。その姿を、応援している人にも楽しんでほしいですね。黒崎さんには地元の現場の声や、女性の知恵を誰よりもフラットによく聞いてくれることを願っています。あなたならできる！今後に期待しています。
黒崎議員：ありがとうございます。これからの政治家には、賛同する仲間たちと一緒に実現に向けた体制をコーディネートできる、プロデューサー的な役割が必要だと考えています。今後も皆さんの声をフラットにお聞きして、議員自らも課題やニーズを発掘して、解決するまでビジョンを掲げていきます。2期目も全力で全うします。



黒崎ゆういち
港区議会議員

官民をつなぎ、
港区らしい先進的な
まちづくりに取り組みます